

手指の微細運動能力に影響を及ぼす要因

○都立短大 川端博子 東学大 鳴海多恵子 弘前大 日景弥生

【緒言】 種々の便利な機器の開発、家事の電化や外部化により、手指の使用の機会は減りつつあるが、手指の巧緻性を向上させることの重要性は多方面から指摘されている。著者らもこれまでの研究から手指の巧緻性の優劣が性格形成や学習意欲等に影響することを報告している。本研究では、手指の微細運動能力に影響する要因を追究するために、手指の運動能力を測定する糸結びなどの作業テストと、生活時間や技能に対する意識等について質問紙調査おこない、それらの関連を解析した。

【方法】 調査対象は東京と青森の小学5年生、約450名である。作業テストでは糸結びテストとたて線引き、点うち、図形模写、目測テストを実施し、手指の微細な運動性や手と目の共応性、敏捷性、物の形や長さの認識について測定した。質問紙調査では①属性、②好きなこと・自信のあること、③生活時間、④作業経験等についてとりあげた。

【結果】 糸結びテストは男子より女子の方が優位であったが、敏捷性や共応性を測る作業では男子が優位な傾向がみられた。しかし、同性間では糸結びテストと他の作業テストの成績には関連がみられた。糸結びテストの成績の上位の者（上位群）と下位の者（下位群）を抽出し、質問紙調査の結果の比較をしたところ、上位群は「スポーツが得意」、「手先の作業が得意」なほか、外遊びや勉強、手伝い、習い事など積極的に様々な活動をしており、下位群はテレビ視聴やテレビゲームなどに費やす時間が多いことがわかった。以上のことから手指の微細運動能力は直接体験の豊かさと自己評価に関連があることが明らかとなった。